

公益財団法人 全国商業高等学校協会 主催
文部科学省 後援

令和6年度 第98回
簿記実務検定試験
第1級 原価計算

(令和6年6月23日実施)

時間 13時10分から14時40分 (制限時間90分)

注意事項

- 1 監督者の指示があるまで、問題を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は1ページから7ページまであります。
- 3 問題用紙の落丁や印刷が不鮮明である場合には、挙手をして監督者の指示に従いなさい。なお、問題についての質問には応じません。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 途中退室は原則できません。
- 6 試験終了後、問題用紙も回収します。

受験番号

| |
|------|
| 受験番号 |
| |

- (3) 岩手製作所における次の等級別総合原価計算表の（ア）に入る金額を求めなさい。ただし、等価係数は、各製品の／個あたりの重量を基準としている。

等級別総合原価計算表
令和〇年〇月分

| 等級別製品 | 重量 | 等価係数 | 完成品数量 | 積数 | 等級別製造原価 | 製品単価 |
|-------|------|------|--------|-----|-----------|------|
| 1級製品 | 740g | 4 | 2,400個 | () | () | ¥() |
| 2級製品 | 370" | () | 3,200" | () | () | "(ア) |
| 3級製品 | 185" | 1 | 4,500" | () | () | "() |
| | | | | () | 6,970,000 | |

- (4) 宮城製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。

- a. 当月の営業利益
- b. 目標営業利益 ¥150,000 を達成するための販売数量
- c. 変動製造費を製品／個あたり20%削減した場合の損益分岐点の売上高

資 料

- ① 販売数量 680個
- ② 販売単価 ¥3,000
- ③ 変動製造費（製品／個あたり） ¥1,500
- ④ 変動販売費（製品／個あたり） ¥300
- ⑤ 固定製造間接費 ¥550,000
- ⑥ 固定販売費及び一般管理費 ¥200,000

- (5) 単純総合原価計算を採用している秋田製作所の次の資料から、月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

iii 正常減損は製造工程の始点で発生しており、正常減損費は完成品と月末仕掛品の両方に負担させる。

資 料

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 生産データ 月初仕掛品 300kg (加工進捗度40%) 当月投入 2,550kg 合計 2,850kg 月末仕掛品 400kg (加工進捗度50%) 正常減損 50kg 完成品 2,400kg | <ol style="list-style-type: none"> ② 月初仕掛品原価 素材費 ¥345,000 加工費 ¥147,600 ③ 当月製造費用 素材費 ¥2,805,000 加工費 ¥3,013,200 |
|---|---|

- (6) 標準原価計算を採用し、パーシャル・プランにより記帳している山形製作所の次の資料をもとにおこなわれた、ある高校の授業における先生と生徒の下記の会話を読み、 のなかに入る金額を求めなさい。また、{ } のなかから、いずれか適当な語を選び、その番号を記入しなさい。

ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

資 料

① 標準原価カード

| A製品 | 標準原価カード | | |
|-------|--------------|----------|---------|
| | 標準単価 | 標準消費数量 | 金額 |
| 直接材料費 | ¥ 600 | 5kg | ¥ 3,000 |
| | 標準賃率 | 標準直接作業時間 | |
| 直接労務費 | ¥ 1,200 | 3時間 | ¥ 3,600 |
| | 標準配賦率 | 標準直接作業時間 | |
| 製造間接費 | ¥ 800 | 3時間 | ¥ 2,400 |
| | 製品/個あたりの標準原価 | | ¥ 9,000 |

② 生産データ

| | |
|-------|-----------------|
| 月初仕掛品 | 300個 (加工進捗度50%) |
| 当月投入 | 1,900個 |
| 合計 | 2,200個 |
| 月末仕掛品 | 400個 (加工進捗度40%) |
| 完成品 | 1,800個 |

③ 実際直接材料費

| | |
|--------|---------|
| 実際単価 | ¥ 610 |
| 実際消費数量 | 9,600kg |

④ 実際直接労務費

| | |
|----------|---------|
| 実際賃率 | ¥ 1,180 |
| 実際直接作業時間 | 5,400時間 |

⑤ 実際製造間接費

¥ 4,369,000

ある高校の授業における会話文

先生: 前回の授業の復習になりますが、標準原価と実際原価を比較し、実際におこなわれた製造活動が目標に対して、どの程度達成できたかを調べてみましょう。それでは、当月の実際生産量にもとづいて標準原価を計算するといくらですか。

生徒A: はい、16,560,000円です。

先生: いいですね。次に実際原価を集計するといくらになりますか。また、当月の原価差異まで求めてみましょう。

生徒B: はい、実際原価は ア 円です。また、原価差異は37,000円の不利差異です。

先生: 正解です。では、これをもとに、まず直接材料費差異について考えてみましょう。どなたか教えてください。

生徒C: はい、直接材料費の標準原価は5,700,000円で、実際原価は5,856,000円ですので直接材料費差異は156,000円の不利差異です。

先生: 正解です。この差異は材料消費価格差異と材料消費数量差異に分けて分析することができましたね。それぞれの差異を分析してみてください。

生徒A: はい、材料消費価格差異は イ 円の不利差異で、これは主に材料の仕入価格に変更があったことによるもので、製造現場において管理 ウ { 1. できる 2. できない } 要因によって発生することが多いということでした。また、材料消費数量差異は () 円の () 差異です。

先生: 正解です。差異分析は、単に金額を求められるだけでなく、不利差異なのか有利差異なのか、また、その主な要因はどのようなことにあるのかということもあわせて勉強していくことで、さらに理解が深まりますね。では、次に直接労務費差異について考えてみましょう。どなたか教えてください。

生徒B: はい、直接労務費の標準原価は () 円で、実際原価は6,372,000円ですので直接労務費差異は エ 円のオ { 1. 不利差異 2. 有利差異 } です。

先生: 正解です。この差異は、賃率差異と作業時間差異に分けて分析することができましたね。それでは、差異の金額だけでなく、その主な要因も考えながら分析してみましょう。

2

福島工業株式会社は工程別総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を作成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。
 ただし、
 - i 第1工程の完成品原価は、すべて第1工程半製品勘定に振り替えている。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。
 - iii 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
 - v 第1工程半製品勘定の前月繰越高は次のとおりである。なお、第1工程半製品は総平均法により半製品単価を計算し、第2工程仕掛品勘定と売上原価勘定に振り替えた。

前月繰越 600個 @ ¥3,015 ¥1,809,000

資料

a. 生産データ

| | 第1工程 | 第2工程 |
|-------|-----------------|-----------------|
| 月初仕掛品 | 400個 (加工進捗度50%) | 400個 (加工進捗度50%) |
| 当月投入 | 3,000個 | 2,900個 |
| 合計 | 3,400個 | 3,300個 |
| 月末仕掛品 | 500個 (加工進捗度40%) | 300個 (加工進捗度60%) |
| 完成品 | 2,900個 | 3,000個 |

b. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

| | 第1工程 | 第2工程 | 補助部門 |
|-----|------------|------------|----------|
| 素材費 | ¥3,753,000 | — | — |
| 労務費 | ¥4,284,000 | ¥4,391,700 | ¥273,000 |
| 経費 | ¥635,500 | ¥941,520 | ¥51,600 |

② 部門共通費配賦額

第1工程 ¥547,200 第2工程 ¥1,094,400 補助部門 ¥182,400

③ 補助部門費配賦割合

第1工程 40% 第2工程 60%

c. 月初仕掛品原価

第1工程 ¥840,000 (素材費 ¥480,000 加工費 ¥360,000)

第2工程 ¥1,750,000 (前工程費 ¥1,330,000 加工費 ¥420,000)

d. 当月中に第1工程半製品 2,900個を次工程へ引き渡し、100個を外部に販売した。なお、払出単価(原価)は ¥3,160である。

3

個別原価計算を採用している鳥取製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月26日と30日①の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・第2製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。
- (4) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (5) 6月末の賃率差異勘定の残高を求めなさい。解答欄の（ ）のなかは借方残高の場合は借方、貸方残高の場合は貸方を○で囲むこと。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

| | | | |
|-----------------|---------------|-------------------------|--|
| 素 材 | 300個 @ ¥2,800 | ¥ 840,000 | |
| 工場消耗品 | 420 " " " 120 | ¥ 50,400 | |
| 賃 率 差 異 | | ¥ 57,000 (貸方残高) | |
| 仕 掛 品 (製造指図書#1) | | ¥3,612,000 (原価計算表に記入済み) | |

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算は作業時間法による予定賃率を用いて計算している。
/年間の予定賃金総額 ¥38,220,000 /年間の予定総作業時間は29,400時間
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

| | 第1製造部門 | 第2製造部門 |
|--------------------|------------|------------|
| 年間製造間接費予定額 (予算額) | ¥4,680,000 | ¥6,624,000 |
| 年間予定直接作業時間 (基準操業度) | 9,000時間 | 14,400時間 |

取 引

- 6月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。
- | | | | |
|-------|-----------------|------------|--|
| 素 材 | 900個 @ ¥3,000 | ¥2,700,000 | |
| 工場消耗品 | 1,800 " " " 120 | ¥ 216,000 | |
- 14日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材700個を消費して製造を開始した。
- 20日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。
- 賃金総額 ¥3,178,000
- うち、控除額 所得税 ¥245,000 健康保険料 ¥136,000
- 26日 A製品（製造指図書#1）30個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を、次の直接作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を計上する仕訳は、月末におこなっている。
- 製造指図書#1 第1製造部門 300時間 第2製造部門 600時間
- 30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は405個であった。よって、消費高を計上した。(間接材料)
- ② 当月の作業時間は、次のとおりであった。よって、当月の賃金予定消費高を計上した。

| | | 合計 \ 内訳 | | |
|--------|---------|---------|--------|-------|
| | | 第1製造部門 | 第2製造部門 | |
| 直接作業時間 | 製造指図書#1 | 900時間 | 300時間 | 600時間 |
| | 製造指図書#2 | 1,200時間 | 500時間 | 700時間 |
| 間接作業時間 | | 400時間 | | |

- ③ 当月の作業時間票を集計したところ次のとおりであった。よって、賃金実際消費高を計上し、賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

| シフト | /時間あたりの実際賃率 | 作業時間 |
|-----|-------------|---------|
| 早朝 | ¥1,400 | 400時間 |
| 日中 | ¥1,200 | 1,300時間 |
| 夕方 | ¥1,600 | 800時間 |

- ④ 上記②の直接作業時間によって、製造部門費を予定配賦した。
- ⑤ 健康保険料の事業主負担分 ¥136,000 を計上した。

⑥ 当月の製造経費消費高を計上した。

電力料 ¥102,000 保険料 ¥18,000
減価償却費 ¥99,000 雑費 ¥7,200

⑦ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥370,800 第2製造部門 ¥549,200
動力部門 ¥144,000 修繕部門 ¥36,000

⑧ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

| | 配賦基準 | 第1製造部門 | 第2製造部門 | 動力部門 | 修繕部門 |
|-------|-----------|------------|------------|------|-----------|
| 動力部門費 | kW数×運転時間数 | 10kW×200時間 | 12kW×250時間 | — | 8kW×125時間 |
| 修繕部門費 | 修繕回数 | 8回 | 7回 | 3回 | — |

⑨ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

⑩ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

4 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

| | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|--------|
| 当座預金 | 製品 | A組製品 | B組製品 |
| 所得税預り金 | 健康保険料預り金 | 売上原価 | 賃金 |
| 従業員賞与手当 | 退職給付費用 | 健康保険料 | 特許権使用料 |
| 仕掛品 (製造) | A組仕掛品 (A組製造) | B組仕掛品 (B組製造) | 組間接費 |
| 材料消費価格差異 | 本社 | 工場 | |

- a. 単純総合原価計算を採用している広島製作所では、月末に特許権使用料の月割額を計上した。ただし、
/年分の特許権使用料は $\yen 3,540,000$ である。
- b. 岡山製作所は、本月分の賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。ただし、諸手当は賃金勘定に
含めないで処理する。
基本賃金 $\yen 2,386,000$ 割増賃金 $\yen 164,000$ 諸手当 $\yen 347,000$
うち、控除額 所得税 $\yen 178,000$ 健康保険料 $\yen 132,000$
- c. 島根工業株式会社は、会計期末にあたり、材料消費価格差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。
なお、材料消費価格差異勘定の前月繰越高は $\yen 16,000$ (借方) であり、当月の材料の予定消費高
 $\yen 619,000$ と実際消費高 $\yen 624,000$ との差額は、材料消費価格差異勘定に振り替えられている。
- d. 組別総合原価計算を採用している山口工業株式会社は、組間接費を各組の直接材料費を基準として配賦
率を求め、A組とB組に配賦した。なお、当月の製造費用は次のとおりである。

| | A組直接費 | B組直接費 | 組間接費 |
|-----|----------------|----------------|----------------|
| 材料費 | $\yen 462,000$ | $\yen 198,000$ | $\yen 187,000$ |
| 労務費 | $\yen 264,000$ | $\yen 176,000$ | $\yen 75,000$ |
| 経費 | $\yen 132,000$ | $\yen 88,000$ | $\yen 134,000$ |

- e. 工場会計が独立している沖縄製作所の本社は、工場の従業員に対する健康保険料 $\yen 740,000$ を小切
手を振り出して支払った。ただし、健康保険料のうち半額は事業主負担分であり、半額は従業員負担分
である。なお、健康保険料預り金勘定は本社にのみ設けてある。(本社の仕訳)

第98回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1

(1)

| | |
|---|---|
| ア | イ |
| | |

(2)

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|
| a | ¥ | | b | ¥ | |
| c | ¥ | | | | |

(3)

| |
|---|
| ¥ |
|---|

(4)

| | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|
| a | ¥ | | b | | 個 |
| c | ¥ | | | | |

(5)

| |
|---|
| ¥ |
|---|

(6)

| | | | |
|---|---|---|--|
| ア | イ | ウ | |
| 円 | 円 | | |
| エ | オ | | |
| 円 | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------|--|---------|--|---------|--|---------|--|-----|--|
| 1 得点 | | 2 得点 | | 3 得点 | | 4 得点 | | 総得点 | |
|---------|--|---------|--|---------|--|---------|--|-----|--|

| | |
|------|------|
| 試験場校 | 受験番号 |
| | |

2

(1)

工程別総合原価計算表

令和〇年〇月分

| 摘 要 | 第 / 工 程 | 第 2 工 程 |
|-----------|---------|-----------|
| 工程個別費 素材費 | | — |
| 前工程費 | — | |
| 労務費 | | 4,391,700 |
| 経 費 | | 941,520 |
| 部門共通費配賦額 | | |
| 補助部門費配賦額 | | |
| 当月製造費用 | | |
| 月初仕掛品原価 | | 1,750,000 |
| 計 | | |
| 月末仕掛品原価 | | 1,358,820 |
| 工程完成品原価 | | |
| 工程完成品数量 | 2,900個 | 3,000個 |
| 工 程 単 価 | ¥ | ¥ |

(2)

¥

(3) ※第2工程仕掛品は第2工程製造を意味している。

第 / 工 程 半 製 品

| | | | |
|---------|-----------|-----------------|---|
| 前 月 繰 越 | 1,809,000 | 第 2 工 程 仕 掛 品 (|) |
| (|) (| 売 上 原 価 (|) |
| | | 次 月 繰 越 (|) |
| | (| |) |

2
得点

3

(1)

| | 借 方 | 貸 方 |
|-------|-----|-----|
| 6月26日 | | |
| 30日① | | |

(2)

| 素 材 | |
|----------|---------|
| 6/1 前月繰越 | 840,000 |
| 第2製造部門費 | |

(3) 製造指図書 # / 原 価 計 算 表

| 直接材料費 | 直接労務費 | 製 造 間 接 費 | | | | 集 計 | |
|-----------|---------|-----------|-----|-------|---------|-------|-----|
| | | 部 門 | 時 間 | 配 賦 率 | 金 額 | 摘 要 | 金 額 |
| 2,520,000 | 780,000 | 第1 | 600 | 520 | 312,000 | 直接材料費 | |
| | | | | | | 直接労務費 | |
| | | | | | | 製造間接費 | |
| | | | | | | 製造原価 | |
| | | | | | | 完成品数量 | 個 |
| | | | | | | 製品単価 | ¥ |

(4) 部 門 費 振 替 表

相互配賦法 令和〇年6月分

| 部 門 費 | 配 賦 基 準 | 金 額 | 製 造 部 門 | | 補 助 部 門 | |
|---------|-----------|-----------|---------|---------|---------|--------|
| | | | 第1部門 | 第2部門 | 動力部門 | 修繕部門 |
| 部門費合計 | | 1,100,000 | 370,800 | 549,200 | 144,000 | 36,000 |
| 動力部門費 | kW数×運転時間数 | | | | — | |
| 修繕部門費 | 修繕回数 | | | | | — |
| 第1次配賦額 | | | | | | |
| 動力部門費 | kW数×運転時間数 | | | | | |
| 修繕部門費 | 修繕回数 | | | | | |
| 第2次配賦額 | | | | | | |
| 製造部門費合計 | | | | | | |

(5) ¥ (借方・貸方)

※ (借方・貸方) のいずれかを○で囲むこと

| | |
|----------|--|
| 3 | |
| 得点 | |

4

| | 借 方 | 貸 方 |
|---|-----|-----|
| a | | |
| b | | |
| c | | |
| d | | |
| e | | |

| | |
|---------|--|
| 4 得点 | |
|---------|--|